

術指導及び資・試料の収集を行う。

〔計画の概要〕

1. 広島県周辺域の中生代火成岩・領家変成岩類・随伴鉱床の研究
 - 1) 中国地方の白亜紀—古第三紀火成岩類及び随伴鉱床の地質学的・岩石学的研究（広島・岡山・兵庫・愛媛県）
 - 2) 山陽帯のろう石鉱床の研究（広島県）
 - 3) 中国産のクロム鉄鉱鉱床の研究（鳥取県）

II. 3. 36 地方地質の研究（九州出張所）

〔方針〕

九州地域内帯及び外帯の堆積物の生成環境と火成活動に伴う変質作用の特性解明 及び変質鉱物の資源的評価を行う。

〔計画の概要〕

1. 九州地方の地質及び陶磁器資源の研究
 - 1) 九州地域の陶磁器資源の研究（長崎・熊本県）
 - 2) 九州外帯堆積岩類の岩石化学的研究（熊本県）
 - 3) 九州内帯中・新生代堆積層の石炭地質学的研究（熊本県）
 - 4) 中部九州第四紀火砕流堆積物の研究（大分・熊本県）

最近中国で発見された新鉱床 No. 8

岸本文男（地質相談所）

XXXIV 武装警察黄金第一総隊 17の金鉱を把握

“第六次5ヶ年計画”の期間に人民武装警察隊の黄金第一総隊は、東北3省と内蒙古自治区東部の58の市・県・旗において金の調査と探査を行い、国家の審査を受けるため、地質探査報告20編を提出した。それによると上記の第一総隊は中型の金鉱床17鉱床、小型の金鉱床3鉱床を探査試験によって確認し、かなりの量の鉱量を獲得した。

彼等が内蒙古自治区の呼盟地区で発見した烏瑪—西口子砂金鉱床は鉱量が非常に大きく、この鉱区が発見・確認されてから、それが中国最大級の砂金産出地の一つになりつつある。彼等は自己の技術に依拠して、まず大型・中型の采金装置12セットを作り、その中の5セットは地方組織に提供し、25,000両の金を採取し、上級機関から示された采金目標の量を52.4%超過して達成した。

さらに第一総隊は烏拉嘎金鉱局のために、現在のところ中国最大の粗鉱処理量1,000 t/日の山金の選鉱所を建て、それに必要な選鉱工程のノウハウを提供した。現在、第一期工事が終わって生産に入り、年産金量は24,000両を越え、中国の金資源の開発に積極的な貢献をしつつある。

徐志明 楊玉奎 王家華
（中国地質報 1986. 2. 12）

XXXVI 吉林省南部で初のウラン鉱床

吉林省地質産産局第四地質調査所の一地質調査隊は1985年、吉林省南部地域で広域調査中に初めてウラン鉱床を発見した。この発見は、同地域におけるウラン

鉱床についての空白を埋め、同地域の原生代前期における堆積環境の謎を解き明かす、貴重な発見である。

馬敏（中国地質報 1986. 1. 31）

XXXXII 湖北省随州県で一大型重晶石鉱床を確認

湖北省地質産産局第8地質大隊は9年間の辛苦を経て湖北省随州県において一つの大型重晶石鉱床を発見・確認した。その鉱量は1,191万t、鉱石の平均BaSO₄含有率は85%を越え、鉱床はカンブリア系下部統最下部の挟炭珪質岩系中において、その生成タイプは堆積変成一層状鉱床に属している。

吳雪琼（中国地質報 1987. 8. 28）

XXXXIII 銅陵県1鉄ゴッサン変じて金銀鉱床

安徽省銅陵県新橋の大型硫黄・鉄・金鉱床の上部には酸化帯の鉄ゴッサン（褐鉄鉱体）が発達している。冶金部の803地質隊は2年間の調査によってこの褐鉄鉱体が鉱量も十分な金・銀共生鉱床であることを把握した。その鉱体の一部は地表に露出し、一部は鉄ゴッサン下部を構成している。主要鉱体は、いずれも侵食基準面よりも上に位置する。この鉱床は採掘しやすく選鉱しやすい。この事実が発見・確定されたことによって、当初有害な挟雑物が存在するとして利用するには至らなかった褐鉄鉱体が「廃品」から「宝物」に変わった。この発見によって、冶金部地質局は地質探鉱成果2等賞を獲得した。

李信培 姜輝先（中国地質報 1987. 9. 18）